

おきなわ・海歩き 第5回
五角形の仲間たち

鹿谷麻夕（しかたに・まゆ）

潮の引いたサンゴ礁に下り立って最初に目につく生き物は、おそらくナマコです。それも直径は数センチですが、長さが数十センチから1メートル以上もある黒くて長々しいナマコがそこら中に転がっています。これはニセクロナマコという種類で、よく見ると、口から黒い手のようなものを何本も出して砂の上をさらっています（写真1）。ナマコは、砂を食べてその中に混ざっている有機物を栄養にしている、砂の掃除屋さんです。お尻の側から、消化されてきれいになった砂のソーセージのようなウンチが出ているのが見つかるかもしれません。沖縄のサンゴ礁にはクロナマコという種類もいます。ややこしいですが、見分け方は簡単。黒い体の上に砂をまっとって一見白っぽく見えるのがクロナマコ



写真1 ニセクロナマコが触手を出して砂を食べている



写真2 体に砂を付けたクロナマコ、右側に砂のウンチ

（写真2）黒い体をさらして長く伸びているのはニセクロナマコ。やっぱり紛らわしいですね。

ナマコには他にも種類がたくさんあります。茶色くてどっしりしたクリイロナマコ、目玉模様が派手なジャノメナマコ。でも決して踏んだりしないでください。種類によっては、お尻をこちらに向けてピューッと白いねばねばの糸を吐き出します。これはキュービエ器官というナマコ独特の内臓で、外敵に襲われたときに吐き出して相手をからめてしまいます。これが靴に付くとなかなか

取れない、かなり強力な粘着力。人によっては、皮膚に付くと赤くなることもあるようです。

さて、潮だまりの岩のすき間からは、気味の悪いトゲトゲの腕がたくさん出て動いています。これはクモヒトデの仲間（写真3）。触っても大丈夫ですが、引っぱり出そうとすると簡単にちぎれてしまうので、気をつけて。でも彼らは再生能力がとても高く、ちぎれた腕も月日が経てば元通りに生えてきます。腕をゆらゆらと動かして、水に漂う有機物を捕まえては餌にする、海中の掃除屋さんです。



写真3 クモヒトデの仲間



写真4 ナガウニの仲間

岩の窪みにはトゲの鋭いウニも潜んでいます。よく見かけるのはナガウニの仲間（写真4）。少し長楕円形をしているので、こう呼ばれます。岸寄りのナガウニは潮だまりの岩陰

にいますが、沖寄りの岩礁にいるナガウニは自分のトンネルを持っています。足元の岩が迷路のように削れていたら、よく見て下さい。1つの迷路に1個体ずつ、ナガウニが入っていることでしょう。このウニは岩の表面に生える小さな藻類をかじるのですが、ついでに岩も少しずつかじってしまうので、次第にトンネル状に岩が削れていきます。一種のなわばりというか住み家というか。ここにはエビや小魚の居候が見られますが、よそのウニがトンネルに入ってきたら、追い出すそうですよ。

ナガウニ迷路があるリーフの近くまで歩いてくると、青くてきれいなヒトデが見つかるでしょう。名前はもちろんアオヒトデ（写真5）。でも、オレンジ色のアオヒトデもいて、こちらは運が良かったらお目にかかれるかもしれません。アオヒトデは水の外に出るのが嫌いです。浅い潮だまりに取り残されると、

何とか水から体が出ないように、水のたまった狭いすき間に体をくの字に曲げて入り込んでいます。触ると結構堅いのに、なぜこんなに狭い場所に体を押し込められるのか不思議ですね。



写真5 アオヒトデ

ナマコ、ウニ、ヒトデ、クモヒトデ。これらはサンゴ礁の海でとてもよく見られる生き物達です。そして、ちょうど魚と両生・爬虫類、鳥類、哺乳

類が「脊椎動物」という1つのグループにまとまるように、これらは「棘皮動物きよくひ」というグループに属する仲間です。棘皮動物の共通点は、体が5つのパーツでできていること。ヒトデは分かりやすいですね。クモヒトデも腕が5本です。ウニはどうでしょう。ウニの死殻が落ちていたら、拾ってみてください。ウニの殻には、トゲの生えていた跡がボツボツの列になって残っています。その列を殻の真上から見ると.....5等分されているのが分かるでしょう。ではナマコは？ もしくリイロナマコを見つけたら、失礼してお尻の穴を覗きましょう。なんとお尻に歯が生えています.....やっぱり5本！ 実はごろんと横になったナマコを縦に見てみると、ナマコも、体の作りが縦に5列のパーツでできているのです。棘皮動物には管足という吸盤状の足が5列ありますが、ナマコでは背中側の2列がイボのように変化し、お腹側に3列の管足を持つようになっています。

棘皮動物の仲間はすべて海に住み、陸上生活をする種類は生まれませんでした。五角形の体は、海での生活にとっても適応して、わざわざ陸上や淡水に進出する必要がなかったのかもしれない。不思議な形をして、岩のすき間や海の底に横たわり、大きな体をゆっくりと動かして暮らしている五角形の仲間たち。私はサンゴ礁を散歩しながら、その不思議に思いを馳せてみたりもするのです。